



大妻女子大学 国際センター 事業と実績

国際交流のすすめ



2023年3月 発行

CONTENTS

はじめに	01
国際センターポリシー	02
国際センターの主な活動について	02
海外協定校・提携校一覧	03
海外研修・留学プログラム	06
短期研修	06
長期留学・交換留学	14
参加者の声	18
短期研修	18
長期留学・交換留学	27
安全と危機管理	32
留学前準備	32
海外旅行保険と危機管理プログラム	32
派遣前・派遣中のプログラム中止や帰国勧告について	33
留学中の備え	33
受け入れ留学生について	34
留学支援講座	36
国際交流イベント	37
課外英語力強化プログラム	38
国際センター専任教員紹介	39
留学お役立ち情報	40

はじめに

現代社会では、ビジネス、観光はもとより、スポーツ、教育、文化、生活、福祉など様々な分野において急速にグローバル化が進んでいます。そして、多くの分野において、語学力だけでなく、異なる文化や価値観を持つ人と人間関係を結び、国際的に協働できる人材が求められています。このような時代において、大妻女子大学では実践的なコミュニケーション能力と国際感覚を身に付けた人材を育成するため、様々なプログラムを準備しています。国際センターは、それらをコーディネートすると共に、学部と連携し、学生のニーズに合わせたマッチングを支援します。

一口に留学と言っても、短期、長期（半年・一年）と期間も様々ですし、留学先の国・地域及び大学の特徴も様々です。大妻女子大学では、令和5年2月現在、北米、アジア、オセアニア、ヨーロッパに38の協定校・提携校を有しており、専門領域の学びに加え、語学力強化、異文化理解、フィールドワーク活動など、明確な特徴を持つプログラムを提供しています。一定の語学力を基礎に長期・交換留学を目指す学生、語学力には自信がないが海外でいろいろな経験をしたい学生など、留学の目的も様々であろうと思います。同じような思いを抱き、一步先んじてチャレンジした先輩学生の経験が、国際センターには蓄積されています。是非、一人で考えるだけでなく、気軽に国際センターのデスクに相談をしてみてください。

このような大妻女子大学学生の留学支援に加え、国際センターでは、海外から大妻女子大学に学びに来る留学生の支援も行っています。各学部における専門領域の学びに加え、日本語力向上の支援、留学生と日本人学生の交流の促進など、留学生が充実した学生生活を送れるように多角的なサポートを提供しています。教室や食堂で留学生と日本人学生が自然に交流する機会がさらに増えるよう、国際センターも引き続き努力をしていきたいと思えます。

海外留学は、日本の歴史や文化、政治や経済など、日本について学ぶことの大切さに気付くことにもつながります。多くの学生に、留学経験を通して世界を知り、日本の社会のあり方と自分自身を考える機会を持って欲しいと思えます。国際センターは、学生と海外での学びの機会を結ぶ懸け橋となれるよう、これからも様々な取り組みを行って参ります。ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

大妻女子大学 国際センター所長 小川 浩

国際センターポリシー

大妻女子大学は、ディプロマ・ポリシーのなかで学生に「グローバル化した社会において、コミュニケーション力を駆使し、自己の未来を切り開いていく能力」を身につけさせることを掲げています。国際センターは、ディプロマ・ポリシーに則り、国内外共に常に時代の変化に適応し「学び働き続ける女性」として社会のあらゆる分野に主体的に参画貢献できる自立した女性の育成を目指しています。

留学において、主体的に学ぶ習慣や、多様性を理解し様々な人と協働できるコミュニケーション能力を持った女性の育成を目指していきます。

国際センターの主な活動について

活動概要

- ①留学生の送り出し及び受け入れに関すること
- ②外国人留学生と本学学生との交流推進に関すること
- ③留学生の送り出し及び受け入れにともなう外国語（日本語を含む）の教育・学習に関すること
- ④留学生の危機管理に関すること
- ⑤課外英語力強化プログラムに関すること
- ⑥その他、国際交流に関すること

留学への送り出し

- ①留学事前・事後の学習として異文化理解講座、国内留学体験講座等を開設しています。
- ②帰国後に留学の成果を生かしキャリア形成につなげるための特別講座や、更なる国際理解推進をはかるためのイベントを開催しています。
- ③危機管理に関する学習プログラムとして「危機管理オリエンテーション」を開催するとともに、日常的な危機管理体制を維持・運用しています。

外国人留学生の受け入れ

- ①「読解」「聴解」「文章表現」「口頭表現」「総合」「日本語能力試験対策」などの日本語教育プログラムを開設しています。
- ②日本文化に関する学習の一環として、「映画から見る日本文化」「日本の漫画とその文化」「日本語と日本の文化」「日本の文学（近・現代）」「日本の家政学」などの講座を開設しています。また、学内外の様々な施設を訪問したり、各種イベントに参加するプログラムも用意されています。
- ③本学で学ぶ留学生の奨学金や学生納付金減免手続きを行っています。

海外協定校・提携校一覧

国	大学	特徴
アメリカ	セントジョセフ大学	1932年に創立された学生総数約1,500名の女子大学。先進的・先導的な幼児教育・特別支援教育が行われています。
	マレー州立大学	1922年に創立された州立大学。人口2万人のケンタッキー州マレー市に位置し、留学生を含むおよそ1万人の学生が学んでいます。
	カリフォルニア大学リバーサイド校	1954年創立。カリフォルニア大学群のうちの一校。メインキャンパスはカリフォルニア州リバーサイドにあります。
	カリフォルニア州立大学チコ校	1887年創立。カリフォルニア州立大学機構のうちの一つで、同州チコに立地する州立大学。チコ校の学生数は約14,000人で、キャンパスには近代的なビルが立ち並びます。
	ニューヨーク市立大学	1847年創立。アメリカで最も歴史ある公立大学群のひとつ。120カ国以上の留学生在が在籍するニューヨーク市立大学クィーンズカレッジでは人文科学系の教育が有名です。
	ポートランド州立大学	1946年創立。オレゴン州では唯一主要都市部に位置する州立大学で、市内に広大なキャンパスを持つオレゴン州最大の大学。学生は約25,000名以上で、特に経営学、教育学、理工学の研究領域が有名です。
	ニューヨーク州立大学ストーブルック校	1957年創立。約1100エーカーの広大で美しいキャンパスに学部生18,000人、大学院生9,000人、世界100カ国以上の留学生在が学んでいます。
カナダ	ダグラスカレッジ	1970年創立。英語研修プログラムを履修した後、所定の英語力が認定されると、カナダ人学生と共に学ぶアカデミックプログラムを履修できます。
	ブリティッシュコロンビア大学	1908年創立。学生総数約5万人のカナダ西部最大の研究総合大学。夏期語学研修では英語学習のほか、ホームステイを通しカナダ社会への理解を深めます。
	ヨーク大学	1959年創立。トロントにあるカナダで3番目に学生数が多い総合大学。カナダ最大規模の広さを誇るキャンパスを持ち、世界150カ国以上から留學生を受け入れています。
	フレーザーバレー大学	1974年創立。幅広い科目を持つ専門プログラムやキャリアプログラム、ESL(第二外国語としての英語)プログラムを持ち、約14,000人もの学生と世界50カ国からの留學生1,000人が学んでいます。
中国	北京師範大学	1902年創立。国際交流に力を入れ、50以上の国から集まった2,000人余りの留學生が寮生活をしながら学んでいます。
	南開大学	中国トップクラスの総合大学で、中国語コミュニケーションの能力を高めます。
	雲南大学	1922年創立。西部エリアでは、特に古い歴史を誇る大学です。
	大連外国語大学	1964年創立の外国語大学。日本語教育においては中国国内ではトップクラスです。
	山東女子学院	前身は1952年設立の「山東婦女幹部学校」。日本語学科などを含む外国語学部、教育学、芸術学、観光学などの学部で、約15,000人が学んでいます。
台湾	国立台北教育大学	台湾を代表する国立の教育大学です。教育大学ならではのカリキュラムや指導方法で、効果的に中国語を学ぶことができます。
	国立台湾師範大学	台湾で最も歴史のある中国語教育機関。語学の授業や校外実習が充実しており、日本語のできるスタッフが常駐しています。
	国立台湾大学	1945年に設立された台湾一大きな国立大学です。台湾で最も権威のある大学として有名です。6つのキャンパス、11学部、54学科を設け、3万人以上の学生が通っています。
韓国	国民大学校	1946年創立。ソウル市に設立された人文学部・社会科学部・法学部・経営学部・工学部・自然科学部など16学部をはじめ大学院14研究科、約2万人の学生が在学している総合大学で、交換留學生も毎年100名以上受け入れています。
	梨花女子大学校	1886年に米国の宣教師メアリー・スクラントンによって創設された韓国最初の女子大学。2万人を超える学生を有し、女子大学としては世界最大規模です。

韓国	明知大学校	1948年に創立された韓国の名門キリスト教私立大学です。約30カ国450人余りの外国人学生が、韓国人の学生と一緒に勉強しています。
	崇実大学校	1897年設立のミッションスクール系私立大学で、2017年には開校120周年を迎えました。日本の多くの大学と協定を結んでいます。
	仁荷大学校	1954年設立。仁川広域市に本部を置く私立大学で、2017年の韓国大学ランキングで全国8位の上位校です。日本の多くの大学と協定を結んでいます。
タイ	アユタヤラチャパット大学	1905年チュラロンコーン国王の後援の下に教員養成学校として古都アユタヤに設立され、のちにアユタヤ教員大学と改名。1992年にプミポン国王よりラチャパット総合地域大学の名を賜り、現在はラチャパット大学を名のる38国立大学のうちの一つ。
マレーシア	アジアパシフィック大学	1993年創立のマレーシアの名門大学で、主にIT産業人材を育成しています。約120カ国から集まった留学生とともに英語を学びながら、マレーシアならではの多文化共生社会を体験することができます。
	サンウェイ大学	マレーシアを代表する企業財団のサンウェイグループが運営する1987年創立の総合私立大学です。学生数は約12,000人で、90カ国以上3,000人の留学生が学ぶ国際色豊かな学校となっています。
オーストラリア	ディーキン大学	1974年創立。メルボルンにあるメインキャンパスは活気ある都市型キャンパスで、30,000人以上の学生が学んでいます。
	モナシュ大学	1958年創立の州立大学。ビクトリア州内に5つのキャンパス（メルボルン市内及び郊外）と2つの海外キャンパス（南アフリカ、マレーシア）を持つ国際色豊かな総合大学です。
	マッコーリー大学	1964年創立。シドニー郊外に位置し、40,000人を超える学生のうち留学生が20%を占めます。キャンパス内にはオーストラリア最大規模のIELTSテストセンターがあります。
イギリス	オックスフォード大学 ハートフォードカレッジ	1282年に設立されたイギリス最古の大学であるオックスフォード大学の構成カレッジの一つ。世界各国から留学生が集まる名門校です。
	ロンドン大学	名門ロンドン大学の英語教育機関が実施している伝統ある英語音声学の講座に参加するプログラムです。
	スターリング大学	1967年創立の国立大学。14,000人以上の学部生・院生を有し、留学生も120カ国以上、約2,800人が学ぶ。広大なキャンパスは「英国で最も美しいキャンパス」と呼ばれています。
ドイツ	フライブルク大学	1457年創立。ドイツでも最も古い大学の一つ。ドイツ語初心者のために開設されるサマープログラムを受講し、ドイツ語とドイツ文化を学びます。
	ミュンスター大学	18世紀に創立されたミュンスター大学の附属機関でドイツ語とドイツ文化を学びます。8～12月の長期研修では、ホームステイで現地の生活が体験できます。
フランス	レンヌ 第2大学	レンヌ大学（1735年設立）から第1・第2に分割される形で1969年に設立された歴史ある国立大学。夏期語学研修では、大学付属のフランス語教育センターで行われる「フランス語と文化コース」に参加し、フランス語の授業を受けます。
イスパ	サン・ホルヘ大学	ユネスコ世界遺産であるクエンカ市とサン・ホルヘ大学が提携する「ほんもののスペイン体験」というプログラムでスペイン語とスペイン文化を学びます。
イタリア	ペルージャ外国人大学	イタリア語とイタリア文化を学ぶ留学生のための大学として1920年に設立されました。現在は学位取得コースで学ぶイタリア人学生も加わって、世界中の学生たちが国境を超えたキャンパスライフを楽しんでいます。



マレー州立大学 (アメリカ)



ブリティッシュコロンビア大学 (カナダ)



ヨーク大学 (カナダ)



国立台湾大学 (台湾)



明知大学校 (韓国)



ディーキン大学 (オーストラリア)



オックスフォード大学ハートフォードカレッジ(イギリス)



レンヌ第2大学 (フランス)

海外研修・留学プログラム

短期研修

《短期語学・文化研修》

春休みや夏休みの長期休暇を利用した主に1ヶ月間前後の海外研修です。アメリカ、カナダ、オーストラリア、中国、台湾、タイ、韓国、マレーシア、イギリス、ドイツ、フランス、イタリアなどの大学キャンパス内での語学研修はもちろん、研修先の文化や歴史見学なども体験できる充実した内容です。滞在方法は大学の寮やホームステイなどから選ぶことができます。

1学期間や1年間といった長期留学への参加が難しい学生や、長期留学の事前準備として参加するケースも多く見られます。

研修後、必要な手続きを行うことにより卒業要件の単位に認定されます。

短期語学・文化研修実施校

国	名称	対象	問い合わせ先	実施期間(約)	時期	滞在先
アメリカ	ポートランド州立大学IELP	全学	国際センター (国際交流支援グループ)	3週間	8月～9月	寮
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学ELI			3週間	8月	ホームステイ
	ヨーク大学ELI			3週間	8月～9月	寮
オーストラリア	ディーキン大学ELI			4週間	2月～3月	ホテル
中国	北京師範大学 漢語文化学院			2週間または3週間	8月、3月	寮
台湾	国立台湾師範大学 国語教学センター			3週間	3月	寮
韓国	梨花女子大学校 言語教育院			3週間	3月	ホテル
タイ	アユタヤラチャパット大学			2週間	2月	寮、ホテル
マレーシア	アジアパシフィック大学LC			4週間	2月～3月	寮
ドイツ	フライブルク大学SLI			4週間	8月	寮、共同住宅
フランス	レンヌ第2大学 CIREFE			4週間	8月～9月	ホームステイ
イタリア	ベルージャ外国人大学(文化研修)			2週間	8月～9月	寮
イギリス	オックスフォード大学ハートフォードカレッジIPD			3週間	8月～9月	寮
	スターリング大学IELS			7週間	2月～3月	寮
	ロンドン大学 英語音声学セミナー			文学部英語英文学科	18日間	8月
マレーシア	サンウェイ大学			人間関係学部	3週間	8月～9月
ギリシャ	ヨーロッパ文化研修	比較文化学部	10日間	2月～3月(隔年実施)	ホテル	
スペイン	サン・ホルヘ大学		2週間または3週間	8月～9月	ホームステイ	

短期語学・文化研修参加者数

2022年度

新型コロナウイルス感染症拡大のため限定的に募集を再開し、継続してオンライン短期語学研修も実施

大学		家	文	社	人	比	短	合計	
国際センター	ディーキン大学ELI	夏期	6	18	6	5	16	0	51
		春期	4	11	2	5	12	2	36
	ディーキン大学（オンライン）		0	2	0	0	1	0	3
	カリフォルニア大学デービス校（オンライン）		0	1	0	0	1	0	2
	アジアパシフィック大学LC		0	2	0	0	2	0	4
	北京語言大学（オンライン）	夏期	0	0	0	0	1	0	1
		春期	0	1	0	0	0	0	1
	慶熙大学校（オンライン）		0	0	1	0	3	0	4

2021年度

新型コロナウイルス感染症拡大のためオンライン夏期・春期オンライン短期語学研修のみ実施

大学		家	文	社	人	比	短	合計	
国際センター	カルフォルニア大学デービス校		1	4	0	0	0	0	5
	ハワイ大学マノア校		4	6	0	1	2	2	15
	カルガリー大学		0	1	0	0	1	0	2
	北京語言大学		0	2	0	0	2	0	4
	北京大学		0	0	1	0	4	1	6
	漢陽大学校		0	1	0	0	0	0	1
	慶熙大学校		2	7	2	2	12	0	25
	ダブリンシティ大学		2	10	1	3	4	3	23
	ブルゴーニュ大学		0	0	0	0	1	0	1
	マルタ大学		2	15	0	8	9	0	34

2020年度

新型コロナウイルス感染症拡大のため春期オンライン短期語学研修のみ実施

大学		家	文	社	人	比	短	合計	
国際センター	ディーキン大学ELI		2	2	2	3	4	1	14
	マルタ大学LS		1	7	2	1	3	2	16

2019年度

大学		家	文	社	人	比	短	合計	
国際センター	カリフォルニア州立大学チコ校ALCI		0	1	1	0	0	0	2
	ポートランド州立大学IELP		1	3	1	2	1	1	9
	ブリティッシュコロンビア大学ELI		0	1	1	0	0	0	2
	ヨーク大学ELI		2	3	4	1	0	1	11
	ディーキン大学ELI		1	1	0	0	1	0	3
	モナシュ大学ELC		0	1	1	3	3	1	9
	国立台湾師範大学国語教学センター		0	0	0	0	2	0	2
	アジアパシフィック大学LC		1	0	1	0	0	0	2
	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ		2	4	0	4	5	3	18
	スターリング大学ELP		1	4	0	1	2	0	8
	フライブルク大学SLI		0	1	0	0	1	0	2
	レンヌ第2大学CIREE		0	1	0	0	1	0	2
	イタリア文化研修		3	1	0	0	1	0	5
比較文化学部	サン・ホルヘ大学		-	-	-	-	4	-	4

2018年度

大学		家	文	社	人	比	短	合計
国際センター	カリフォルニア州立大学チコ校ALCI	0	1	0	0	2	0	3
	ブリティッシュコロンビア大学ELI	1	3	1	2	5	0	12
	ディーキン大学ELI	1	3	0	0	0	0	4
	モナシュ大学ELC	0	2	0	0	0	1	3
	国立台湾師範大学国語教学センター	0	1	0	0	4	0	5
	梨花女子大学校言語教育院	3	2	1	0	5	0	11
	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	0	3	3	2	5	2	15
	スターリング大学ELP	0	2	0	0	0	0	2
	フライブルク大学SLI	0	0	0	0	1	0	1
	レンヌ第2大学CIREE	1	0	0	0	1	0	2
文学部英文学科	ロンドン大学英語音声学セミナー	-	4	-	-	-	-	4
比較文化学部	サン・ホルヘ大学	-	-	-	-	8	-	8
	ヨーロッパ文化研修	-	-	-	-	14	-	14



ポートランド州立大学（アメリカ）



オックスフォード大学ハートフォードカレッジ（イギリス）



ヨーク大学（カナダ）



ディーキン大学（オーストラリア）



ペルージャ外国人大学 [文化研修]
（イタリア）



梨花女子大学校（韓国）

《紹介プログラム》

国際センターでは、語学や文化の研修だけでなく、東南アジア各国での「体験・課題解決型」プログラム、そして航空会社への就職を希望する学生向けに、オーストラリア・カンタス航空が実施するキャビンクルー・グランドスタッフ訓練を体験するプログラムなども紹介しています。

短期語学・文化研修と同じく、夏季休業期間や春季休業期間を利用して実施される1ヶ月前後の研修で、研修後、必要な手続きを行うことにより卒業要件の単位に認定されるものもあります。

名称	対象	問い合わせ先	実施期間(約)	時期	滞在先
JSAF主催語学力重点プログラム (FLAP) (大学キャンパス語学研修)	全学	JSAF・国際センター (国際交流支援グループ)	2～5週間	8月～9月 2月～3月	ホームステイ
エステーエートラベル主催ウエスタンシドニー大学 英語+キャビンクルー・グランドスタッフトレーニングプログラム		エステーエートラベル ・国際センター (国際交流支援グループ)	3週間	8月～9月 2月～3月	ホームステイ
早稲田大学アカデミックソリューション主催 海外フィールドスタディ (課題設定型) プログラム (タイ、ブルネイ、カンボジア、マレーシア、ベトナム、フィリピンなど：開催年による)		早稲田大学アカデミック ソリューション・国際セ ンター (国際交流支援グループ)	2週間	8月～9月 2月～3月	ホテル、 ホームステイ

《JSAF主催 ACEJ短期語学研修》

JSAF (一般財団法人 日本スタディ・アブロード・ファンデーション) の姉妹団体ACEJが主催する大学キャンパス語学研修です。

プログラムの特徴

- ◇ 世界の名門大学のキャンパスで2～5週間学ぶプログラムです。参加者は原則として留学先大学より語学研修生として受け入れられ、大学キャンパスまたは大学付属施設内で授業を受けることができます。さらに、図書館やカフェテリア等の大学施設が利用でき、海外大学の雰囲気を経験することができます。
- ◇ ACEJによる無料個別カウンセリング、出発準備から帰国までの手厚いサポートが受けられます。

大学キャンパス語学研修大学 (2023年春)

アメリカ：ワシントン大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校

カナダ：ブリティッシュコロンビア大学

アイルランド：アイルランド国立大学ダブリン校

マルタ：マルタ大学

プログラム参加者数

2020年度、2021年度、2022年度

新型コロナウイルス感染症拡大のため、催行されませんでした。

2019年度

大学名		家	文	社	人	比	短	合計
ワシントン大学 (アメリカ)	春期	1	0	0	0	0	0	1
シアトルパシフィック大学 (アメリカ)	夏期	1	1	0	0	0	0	2
カリフォルニア大学サンディエゴ (アメリカ)	春期	0	3	1	0	0	0	4
ハワイ大学マノア (アメリカ)	春期	0	2	0	0	0	0	2
トロント大学 (カナダ)	春期	0	0	0	2	1	0	3
ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)	春期	0	1	0	0	0	0	1
西オーストラリア大学 (オーストラリア)	春期	0	1	0	0	0	0	1
クイーンズランド大学 (オーストラリア)	春期	0	0	1	0	0	0	1
オークランド大学 (ニュージーランド)	春期	1	0	0	0	0	0	1
マルタ大学 (マルタ)	夏期	1	0	0	0	0	0	1
	春期	0	2	0	0	1	0	3
合計	夏期	2	1	0	0	0	0	3
	春期	2	9	2	2	2	0	17

2018年度

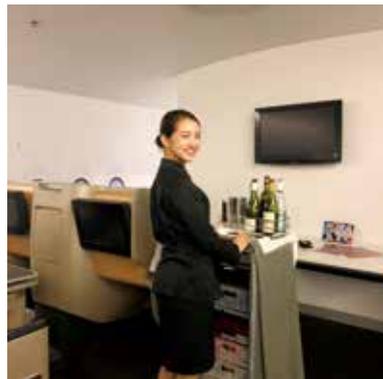
大学名		家	文	社	人	比	短	合計
ワシントン大学 (アメリカ)	夏期	0	3	0	1	0	0	4
	春期	0	1	0	0	3	0	4
シアトルパシフィック大学 (アメリカ)	夏期	0	2	0	0	0	0	2
カリフォルニア大学サンディエゴ (アメリカ)	春期	0	9	0	0	0	0	9
ハワイ大学マノア (アメリカ)	春期	0	1	0	0	0	0	1
ブリティッシュコロンビア大学 (カナダ)	春期	0	1	0	0	0	0	1
トロント大学 (カナダ)	夏期	0	1	0	0	1	0	2
	春期	0	6	0	0	0	0	6
ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)	春期	0	0	1	0	0	0	1
西オーストラリア大学 (オーストラリア)	春期	0	1	0	0	0	0	1
クイーンズランド大学 (オーストラリア)	春期	0	0	0	0	1	0	1
オークランド大学 (ニュージーランド)	夏期	0	0	1	0	2	0	3
グリフィスカレッジ (アイルランド)	夏期	0	1	0	0	2	0	3
	春期	0	1	1	1	1	0	4
ロンドン芸術大学 (イギリス)	春期	0	0	0	0	1	0	1
合計	夏期	0	7	1	1	5	0	14
	春期	0	20	2	1	6	0	29

〈エスティーエートラベル主催 ウェスタンシドニー大学英語+キャビンクルー・グランドスタッフトレーニングプログラム〉

(株) エスティーエートラベルが主催する体験型プログラムです。

プログラムの特徴

- ✧ ウェスタンシドニー大学で2週間の語学研修後、カンタス航空の研修施設でキャビンクルーとグランドスタッフ両方の仕事が体験できます。
- ✧ エコノミー、ビジネスクラスでの機内食サービスの体験や緊急脱出訓練を行います。航空業界に興味がある方や就職を考えている方にぴったりのプログラムです。



プログラム参加者数

2020年度、2021年度、2022年度

新型コロナウイルス感染症拡大のため、催行されませんでした。

2019年度

プログラム名	家	文	社	人	比	短	合計
ウェスタンシドニー大学英語+ キャビンクルー・グランドスタッフトレーニングプログラム	1	1	0	0	0	0	2

〈早稲田大学アカデミックソリューション主催 海外フィールドスタディ（課題設定型）プログラム〉

(株) 早稲田大学アカデミックソリューションが主催する体験型プログラムです。

プログラムの特徴

- ✧ 机上の知識だけではない「生きた知識」を身につける学習方法「フィールドスタディ」に、課題設定型学習要素を加えたグローバル社会に役立つ海外研修プログラムです。
- ✧ 各国にそれぞれ異なるオリジナリティあふれる課題を自ら発見・設定し、参加学生を中心にその解決策を探り、その過程で問題解決へのアプローチ方法を身につけることができます。
- ✧ 現地大学や日系企業訪問、インターンシップ、ボランティア活動などのフィールドワークが充実しています。
- ✧ 他大学との合同研修で、新たな出会いといつもと違う学び体験ができます。国内での事前・事後研修により、研修効果を高めます。

プログラム参加者数

2019年度、2020年度、2021年度、2022年度

新型コロナウイルス感染症拡大のため、催行されませんでした。



ホテルでインターンシップ体験
(マレーシア)

《国内留学》

海外留学よりも気軽に参加することができます。

名称	対象	問い合わせ先	実施期間(約)	時期	滞在先
テンプル大学ジャパンキャンパス アカデミック英語集中研修 (SAJ)	全学	国際センター (国際交流支援グループ)	6週間	2月～3月	-

《テンプル大学ジャパンキャンパス (TUJ) アカデミック英語集中研修 (SAJ: Study Abroad JAPNA)》

プログラムの特徴

- ◇ 単位プログラムとして実施しています。
- ◇ TUJはアメリカ、アジア、ヨーロッパ、中東、アフリカなど世界約60カ国・地域から集まる学生が共に単んでいるので日本にいながら異なる文化の理解を深め国際感覚を養うことができます。



プログラム参加人数

2022年度

大学		家	文	社	人	比	短	合計
国際センター	テンプル大学ジャパンキャンパス	0	4	0	0	0	0	4

短期研修 参加までの流れ

～夏期（7月～8月）出発の場合～

時期	手続・イベント
4月～5月頃	①募集説明会参加 ・4月頃に開催日時などを大学HP・UNIPA等で告知します。 ・研修内容、申込方法等について説明し、申込書等をお渡しします。 ・基本的に昼休みの時間（12：20-12：50）に複数回実施しますが、もし参加できない場合は国際交流支援グループにお問い合わせください。 ②研修参加申込 ・申込締切日までに申込書類を提出してください。 ③選考結果発表 ・結果発表後、研修参加が確定となります。
5月～7月頃	④パスポートの準備 ・所持していない方は準備をお願いします。 ⑤ガイダンス参加（複数回） ・渡航準備、支払い手続、海外旅行保険加入、危機管理オリエンテーション等を行います。
7月～8月頃	⑥短期研修参加
9月頃	⑦単位認定関連書類、アンケートの提出 ・締切日までに提出してください。

～春期（2月～3月）出発の場合～

時期	手続・イベント
10月～11月頃	①募集説明会参加 ・9月頃に開催日時などを大学HP・UNIPA等で告知します。 ・研修内容、申込方法等について説明し、申込書等をお渡しします。 ・基本的に昼休みの時間（12：20-12：50）に複数回実施しますが、もし参加できない場合は国際交流支援グループにお問い合わせください。 ②研修参加申込 ・申込締切日までに申込書類を提出してください。 ③選考結果発表 ・結果発表後、研修参加が確定となります。
11月～2月頃	④パスポートの準備 ・所持していない方は準備をお願いします。 ⑤ガイダンス参加（複数回） ・渡航準備、支払い手続、海外旅行保険加入、危機管理オリエンテーション等を行います。
2月～3月頃	⑥短期研修参加
4月頃	⑦単位認定関連書類、アンケートの提出 ・締切日までに提出してください。

※学部主催プログラムについては、各学部にお問い合わせください。

長期留学・交換留学

大妻女子大学が協定を結ぶ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、中国、台湾、韓国、フランスなどの大学に、3週間、1学期または1年間留学するプログラムです。語学力の向上だけでなく、所定のレベルに到達すると現地学生と共に大学の正規科目を受講できる場合もあります。

なお、長期留学期間中の大妻女子大学学納金については、授業料は免除となります（留学先の学費は納入します）。

また、交換留学期間中の学納金は大妻女子大学に納入します（交換留学先の学納金は免除となりますが、寮費などの支払いが必要です）。

長期・交換留学の留学期間は本学の在学期間に算入され、留学先で得た単位を本学の単位として認定する制度があります。このため、卒業要件に必要な単位数を取得することができれば、大学4年間（短期大学部2年間）で卒業できます。長期・交換留学の単位認定については、所属学部や参加プログラム、履修科目によって、単位認定の方法や認定できる科目が異なります。詳細は、文学部コミュニケーション文化学科は「海外留学支援教員」、比較文化学部比較文化学科は「国際センター併任教員」、その他は各学部学科の「教務委員」にお問い合わせください。

長期留学実施校

本学の協定校へ1学期または1年間留学するプログラムです。

国	名称	対象	問い合わせ先	実施期間(約)	時期	滞在先
アメリカ	マレー州立大学IIS	全学	国際センター (国際交流支援グループ)	5ヶ月間	8月～12月	寮
				10ヶ月間	8月～5月	
カナダ	ヨーク大学ELI			6ヶ月間	8月～2月 2月～8月	寮
オーストラリア	ディーキン大学ELI			11ヶ月間	2月～12月	ホームステイ、寮
中国	北京師範大学漢語文化学院			6ヶ月間	2月～7月	寮
				1年間	2月～1月	
	大連外国語大学漢学院			6ヶ月間	2月～7月	寮
台湾	国立台湾大学文学院語文中心			7ヶ月間	2月～8月	民間レジデンス、 ホテル
				1年間	2月～2月	
フランス	レンヌ第2大学CIREFE			4ヶ月間	9月～12月	ホームステイ
中国	南開大学漢語言文化学院	比較文化学部		5ヶ月間	9月～1月	寮
台湾	国立台湾師範大学国語教学センター			6ヶ月間	9月～2月	寮
ドイツ	ミュンスター大学WiPDaF			5ヶ月間	8月～12月	ホームステイ
イギリス	オックスフォード大学ハートフォードカレッジIPD			6ヶ月間	10月～3月	寮
	オックスフォード大学ハートフォードカレッジIPD	短期大学部英文科	6ヶ月間	10月～3月	寮	

交換留学実施校

大妻女子大学が、協定校のうち「交換留学覚書」を取り交した海外の大学との間で実施される3週間、1学期または1年間の留学です。

国	名称	対象	問い合わせ先	実施期間(約)	時期	滞在先
中国	山東女子学院	全学	国際センター (国際交流支援グループ)	3週間	3月	寮
韓国	仁荷大学校			4ヶ月間	3月～6月 9月～12月	寮
				10ヶ月間	3月～12月	
	国民大学校			4ヶ月間	3月～6月 9月～12月	寮
				10ヶ月間	3月～12月	
	崇実大学校			4ヶ月間	3月～6月 9月～12月	寮
				10ヶ月間	3月～12月	
	明知大学校			4ヶ月間	3月～6月 9月～12月	寮
				10ヶ月間	3月～12月	



国民大学校 (韓国)



マレー州立大学 (アメリカ)



ディーキン大学 (オーストラリア)

長期留学・交換留学参加者数（出発時点が年度内のもの）

2022年度

大学			家	文	社	人	比	短	合計
国際センター	ディーキン大学（5ヶ月間）	夏期	0	5	1	1	0	0	7
		春期	0	2	0	0	0	0	2
	ディーキン大学（10ヶ月間）	夏期	0	4	0	0	0	0	4
		春期	0	1	0	0	1	0	2
	国立台湾大学（6ヶ月間）	夏期	0	3	0	0	2	0	5
		春期	0	1	0	0	0	0	1
	国立台湾大学（9ヶ月間）	夏期	0	1	0	0	0	0	1
	国立台湾大学（12ヶ月間）	春期	1	0	0	0	0	0	1
比較文化学部	ミュンスター大学		-	-	-	-	1	-	1

2020年度、2021年度

新型コロナウイルス感染症拡大のため、催行されませんでした。

2019年度

大学			家	文	社	人	比	短	小計
国際センター	マレー州立大学（5ヶ月間）		0	2	1	0	1	0	4
	マレー州立大学（10ヶ月間）		0	1	0	0	0	0	1
	カリフォルニア大学リバーサイド校（5ヶ月間）		0	3	0	0	0	0	3
	ディーキン大学		0	1	0	0	1	0	2
	国立台湾大学（7ヶ月間）		0	4	0	0	0	0	4
	国立台湾大学（12ヶ月間）		0	1	0	0	0	0	1
	国民大学校（交換）（4ヶ月間）		0	0	1	0	0	0	1
比較文化学部	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ		-	-	-	-	3	-	3
	ミュンスター大学		-	-	-	-	1	-	1
	モナシュ大学		-	-	-	-	4	-	4
	国立台湾師範大学		-	-	-	-	1	-	1
短期大学部英文科	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ		-	-	-	-	-	1	1

2018年度

大学			家	文	社	人	比	短	小計
国際センター	マレー州立大学（5ヶ月間）		0	1	0	0	0	0	1
	カリフォルニア大学リバーサイド校（5ヶ月間）		0	1	0	0	1	0	2
	ディーキン大学		0	2	0	0	0	0	2
	国民大学校（交換）（4ヶ月間）		0	2	0	0	0	0	2
	国民大学校（交換）（10ヶ月間）		0	1	0	0	0	0	1
	明知大学校（交換）（4ヶ月間）		0	0	1	0	1	0	2
	国立台湾大学（7ヶ月間）		0	3	0	0	0	0	3
比較文化学部	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ		-	-	-	-	1	-	1
	ミュンスター大学		-	-	-	-	2	-	2
	モナシュ大学		-	-	-	-	2	-	2
	国立台湾師範大学		-	-	-	-	2	-	2
短期大学部英文科	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ		-	-	-	-	-	1	1

《長期留学・交換留学 参加までの流れ》

～春期（2月～3月）出発の場合～

時期	手続・イベント
5月～7月頃	①募集説明会参加 ・5月頃に開催日時・場所などを大学HP・UNIPA等で告知します。 ・留学内容、出願方法について説明し、申込書等をお渡しします。 ・基本的に昼休みの時間（12：20-12：50）に複数回実施しますが、もし参加できない場合は国際交流支援グループにお問い合わせください。 ②出願準備 ・GPA（通算）、語学検定試験の結果等の出願基準があります。 ※詳細は国際交流支援グループにお問い合わせください。
9月～10月頃	③出願 ・出願締切日までに出席資格を満たし、出願書類一式を提出してください。 ④選考試験 ・筆記、面接試験等を行います。 ⑤選考結果発表 ・結果発表後、留学参加が確定となります。
10月～1月頃	⑥パスポートの準備 ・所持していない方は準備をお願いします。 ⑦ガイダンス参加（複数回） ・渡航準備、支払い手続、海外旅行保険加入、危機管理オリエンテーション等を行います。
2月～3月頃	⑧長期・交換留学参加（3週間、1学期または1年間）
帰国後	⑨単位認定関連書類、アンケートの提出 ・締切日までに提出してください。

～夏期（7月～8月）出発の場合～

時期	手続・イベント
9月～11月頃	①募集説明会参加 ・9月頃に開催日時・場所などを大学HP・UNIPA等で告知します。 ・留学内容、出願方法について説明し、申込書等をお渡しします。 ・基本的に昼休みの時間（12：20-12：50）に複数回実施しますが、もし参加できない場合は国際交流支援グループにお問い合わせください。 ②出願準備 ・GPA（通算）、語学検定試験の結果等の出願基準があります。 ※詳細は国際交流支援グループにお問い合わせください。
1月～2月頃	③出願 ・出願締切日までに出席資格を満たし、出願書類一式を提出してください。 ④選考試験 ・筆記、面接試験等を行います。 ⑤選考結果発表 ・結果発表後、留学参加が確定となります。
2月～7月頃	⑥パスポートの準備 ・所持していない方は準備をお願いします。 ⑦ガイダンス参加（複数回） ・渡航準備、支払い手続、海外旅行保険加入、危機管理オリエンテーション等を行います。
8月～9月頃	⑧長期・交換留学参加（約4ヶ月間～約1年間）
帰国後	⑨単位認定関連書類、アンケートの提出 ・締切日までに提出してください。

※学部主催プログラムについては、各学部にお問い合わせください。

参加者の声（一部抜粋）

短期研修



研修・留学先：ヨーク大学 短期語学研修（カナダ）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- 学力テストで分かれたクラスによる英語の学習です。自分のレベルに応じた環境で学ぶことができたので、無理せず楽しみながら授業に参加することができました。
- 現地の教員や学生、日本から同じプログラムで来ている学生と出会えたことが最も有意義だと感じた。留学前は4週間英語を学ぶだけという意識だったが、たくさんのアクティビティを通したり、日常を共に過ごしたりして、人との繋がりの大切さやコミュニケーションをとる楽しさを大いに感じる事ができた。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- 授業では、文法・発音・リーディング・リスニング・プレゼンテーション・カナダの文化について学びました。また宿題では、日記やプレゼンテーションのためにクラスリーダーなどにインタビューをして会話をしました。
- 課外アクティビティが多いことが魅力です。カナダの有名な場所や観光地に行ったり、スポーツ観戦やキャンプをしたりすることでカナダを感じることができました。私は海外へ行き慣れていないので、自由時間がたくさんあるよりは自分では行かないようなところへたくさん連れて行ってほしい、新しい発見がたくさんありとても充実したと思います。また、キャンプでは普段のクラスと関係なくみんなで過ごすので、たくさんの人と仲良くなれる場となりました。
- 授業以外の時間は、課題やプレゼン発表の準備などで英語の学習に取り組んでいました。また日常においてもコミュニケーションを取るために必ず英語で会話をしなければならぬため、より実践的で効率良く英語のスキルを鍛えることができました。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- 英語力の向上はもちろん、他大学の生徒や現地の生徒・先生方などの多くの人々との関わりによって、自分の立場や役割を弁えて行動する社会性もしっかり身についたと思います。
- 日本を離れてみて英語（その他含め知識）がどれほど大事かを痛感できたこと。
- 知らない地でも自ら積極的に行動することや仲間との助け合いの大切さを実感したこと。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- これからも外国人だからと関わりを避けようとするのではなく積極的にコミュニケーションを取ることを大切にしていきたい。
- また海外に行きたいと思えたり、挑戦することの大切さ、また挑戦するための勇気ももらったのでいろいろなことに自分から取り組んでいこうと思う。

日本と留学先の国の違いについて気づいたことがあれば書いてください。

- 日本とカナダの「サービス」についての考え方の違い。カナダの店員さんは接客中であっても携帯を使うなど、日本では行われていないことを多く目にした。また日本は何かお店側に少しでも不満や不備があるとお店側はすぐに謝ることが多いが、カナダではそういう事がなかったのでその国によってサービスについての考え方が違うことが分かりました。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- 私は行く前は期待より不安の方が大きかったですが、意外と1か月はあっという間でした。改めて思い返すと1日1日はとても濃いものでたくさんの経験・思い出ができました。アクティビティ以外の自由時間にもいろいろな所に行くことができるため、なんとなくでも調べておくことによりカナダの街を楽しめるのかなと思います。





授業について

- 自分のレベルにあったクラスで学ぶことができ、英語の伸びを実感することができました。担任の先生もわかりやすく噛み砕いた英語で話をしてくださり理解しやすかったです。校外学習も有意義な時間を過ごすことができました。
- 教材はパソコンで閲覧する教科書を使用しました。また、パソコンは宿題の提出や課題の作成、教科書や資料の閲覧などにも使用しました。宿題は毎日出ましたが、難しいものではなく、長くても1時間あれば終わらせることができる程度のものでした。

アクティビティについて

- 学生ボランティアの方々が引率してくれるので安心して参加できました。
- 私が参加したフィリップアイランドツアーはフィリップアイランドに行ってペンギンが巣に戻ってくる様子を見に行くものでした。夕食はフィリップアイランド内にあるピザ屋さんでツアー参加者全員と食べました。また少し自由時間があり、海などで写真撮影などを行う事ができました。

ホームステイについて

- ホストファミリーがとても優しい方々で、私のつたない英語を聞き取り、話かけてくれることがほんとにありがたかったです。ホストファミリーは70歳と69歳の夫婦でした。近所に息子家族も住んでいるため、たまに夕食を一緒に食べました。また、困ったことがあれば、相談にのって解決に導いてくださって、何度も助けられました。ホームステイ先での生活はとても楽しく充実していました。

学内とその周辺の治安について

- 治安は想像していたより良かったです。冬場だったので、夕方になると外はとても暗くて街灯も少ないため、少し怖いと感じました。

滞在国と日本の生活や文化の違いについて

- 公共交通機関の運転がとても荒かった点や、車内アナウンスなどが日本に比べてとても少なかった点が印象的でした。また、バスの中では常に音楽がかかっている、日本よりも働く人の自由度が高いのかなと感じました。全体的にのんびりとした空気感があるなと思いました。

留学の成果

- 研修前に比べて、英語に対して親しみをもち学ぶことができるようになったと感じます。リスニングとスピーキングは上達したと思います。英語のラジオや大学の英語の授業の音声が、以前よりも聞き取りやすくなったと帰国後感じました。スピーキングも、今までよりも英語がスラスラと出てくるようになり、上達したと感じました。また、英語を話すことや自分の意見を述べることに対する抵抗感を少し減らすことがきたように思います。

来年度以降の参加者へのアドバイス

- 1ヶ月はあっという間に過ぎてしまうので、たくさんチャレンジしてみしてほしいと思います。失敗したり間違えてしまったりしてもその経験は大きな宝物です。ぜひ、充実した留学生活を送って欲しいと思います。

プログラムの全体的な感想

- 国際センターの事前ガイダンスやフォローアップ、研修先大学の対応が丁寧であり、安心して研修を受けることができました。ホームステイ先での生活や語学学校の学習など全体的に充実した時間を過ごすことができました。





研修・留学先：ディーキン大学 短期語学研修（オーストラリア）

授業について

- 基本的な内容から応用まで、幅広く勉強しました。先生方は私たちの意見を否定することなく優しく背中を押してくださったので発言しやすかったです。シティーで行う校外授業もあり、メルボルンを最後まで楽しみながら受講できました。
- 教材は語学学校で用意された教科書を使用しました。私たちは3週間プログラムで期間が短かったため、教科書は冊子ではなく、同じ内容がパソコンにダウンロードされたものを使っていました。私のクラスの宿題は、Word 1 ページ分のWriting課題が土日中心で出されました。平日は、ボキャブラリーを増やすこと、日常会話に多く触れるよう心掛けました。

アクティビティについて

- Deakin大学の学生ボランティアの方が開催してくれた休日ツアーに参加しました。2回開催されたのですが、第一回目はグレートオーシャンロード、第二回目はフィリップアイランド、といった観光名所を回る終日ツアーでした。野生のコアラやペンギンが見られたり、オージービーフも食べられました。
- オーストラリアでしか体験できない雄大な自然も肌で感じることができ、手つかずの大自然のダイナミックで美しい12使途の風景が目の前に現れた時には特に感動しました。
- 現地のバスの運転手さんの面白いガイド付きで、オーストラリアを満喫できた良い思い出となりました。

ホームステイについて

- 祖父、祖母、父、母、息子（6歳）、娘（3歳）の6人家族の中国系のホストファミリーでした。お父さんは単身赴任のために別の国へ行っていたので話すことができませんでしたが、5人の家族に温かく迎えてもらいました。主に祖父、祖母、子どもたちと過ごす時間が多く取れました。

学内とその周辺の治安について

- 暗い夜道を歩いても、すれ違う現地の方は笑顔で挨拶してくれるので怖さはありませんでした。町全体もきれいで、毎日清々しく過ごすことができました。

滞在国と日本の生活や文化の違いについて

- 公共交通機関でも店内でも、構わず普通の声量で通話していることに驚きました。また、知らない人同士で会話したり、名前を教え合ったり、フレンドリーさを感じました。

留学の成果

- ネイティブの発音や日本では習わなかった日常会話を聞き、知らない単語やフレーズが使われている場面を目の当たりにして自分も真似することで、英語が上達している感覚を得ることができました。また、リスニングについても日が経つにつれて聞き取れるようになり、英語環境にいる素晴らしさに感激しました。

来年度以降の参加者へのアドバイス

- 人生においてかけがえのない経験になることは間違いありません。メルボルンは治安も良く、現地の方も優しいので、きっと充実した留学生生活を過ごせると思います。ディーキン大学には、学生をサポートしてくれる先生方がたくさんいらっしゃるのでも安心して留学を愉しんでいただきたいです。

プログラムの全体的な感想

- 出発から帰国までのサポートが充実していて、不安だった異国での生活も事前の準備ができ安心して過ごすことができました。渡航して最初に行うシティー観光ツアーで日常の買い物や外食できる場所などがわかるので、約1ヶ月の留学生生活をより有意義に過ごすことができました。





研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- 毎日中国語に触れることができ、なによりも少人数で行われる中国語しか使わない大学の授業がとても楽しかったです。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- 私のクラスはみな日本人でしたが、朝の9時から12時まで、台湾人の先生と中国語しか使わない授業を受けました。自分のレベルに合った教科書を使用し、とても楽しく受けることができました。授業以外では、友人と大学近くのレストランにご飯を食べに行ったり、また地下鉄に乗ったりなど、初めてのことばかりで楽しかったです。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- 語学力が成長したと感じます。中国語を話すことに抵抗を感じなくなり、自分の意識も変わったと感じ、行ってよかったと感じました。また、初めての寮生活で自分の生活力も身につけることができました。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- 学んだことを忘れずに、3年になっても中国語の授業をしっかりと受け、検定などにも挑戦したいと思っています。

日本と留学先の国の違いについて気づいたことがあれば書いてください。

- 時間の流れがとてもゆっくりと感じられ、人々も優しく幸せに過ごすことができたと感じます。

研修・留学中に困ったことはありましたか。それはどんなことでしたか。

- 寮の部屋の電気の調子が悪かったことくらいでした。そのほか、感染症が流行していた影響もあり、どこか不安な気持ちもありながら過ごしましたが、楽しかったです。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- 学びたい、楽しもうという気持ちがあれば3週間はあっという間なので、大事に過ごしてほしいです。





研修・留学先：アジアパシフィック大学 短期語学研修（マレーシア）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- 日本では出来ない発展途上国での生活や、今まで触れたことのなかったイスラム教などの他宗教を経験したこと。様々な国から来ているクラスメイト達と英語で自分たちの国の文化について共有できたこと。
- 休日に様々な場所へ行けたこと。モスクや洞窟へ実際に行くことでその場所特有のマナーや文化を実際に体験できた。そのため、食事や生活等様々な面から異なる文化を楽しむ心を持つ重要性が理解出来た。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- 授業で取り上げるトピックは美容整形や薬物乱用についてなど、日本ではなかなか話さない内容が多く、それに対する意見・視点も様々で新鮮だった。
- 英語の授業はWriting&ReadingとSpeaking&Listeningに分かれていた。W&Rでは英語を書く読むのみならず、グループを作りある議題について話し合いをしてその結果をクラスメイトの前で発表することもあり、Speakingの力が必要とされた。S&Lではゲーム形式で英語を話すこともあり、歌のListeningなどをして楽しみながら学べた。
- 授業以外の学習として、1度放課後にアクティビティを行った。グループを作って紙で民族の新しい衣装を作るというものだった。違うクラスの人もいたため、交流を広げることが出来た。もちろん、授業もアクティビティも全て英語で行われたので、とても良い英語の勉強になった。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- 日本では当たり前だったことがマレーシアでは通用しないことが多く、今までどこにあるのかもわからなかったような国の友人と話すことで自分とは違う価値観に触れて、物事を広い視野で見ることができるようになったと思う。
- ハングリー精神。英語を話すのはあまり得意でないし、正直話さないでいようと思えばやり過ごせてしまう環境だった。だからこそ毎日自分から話しかけて、挨拶やお礼でも些細なコミュニケーションを取ることが大切にした。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- この留学で何事も広い視野で様々な角度から見ることの大切さを知った。また、公用語がマレー語のため英語が通じない人も少なくなかった。そのことから今後は中国語を学ぶ必要性を改めて感じた。
- 英語はただ机に向かって勉強するだけのものではなく、言葉であることがよく分かった。英語の勉強法としての選択肢が広がった。新しく、英会話を始めるなどして、自分の生活に組み込みやすい形や方法で今後も英語を学べたら良いと思う。

日本と留学先の国の違いについて気づいたことがあれば書いてください。

- 先進国と発展途上国なので違う点は多かった。日本は交通がとても発展しているがマレーシアは歩道がほぼない状態だったのでタクシー移動がメインだった。多くの宗教が混合しているので、宗教上の理由で学校の時間割が金曜日だけ変則的になっていた。

研修・留学中に困ったことはありましたか。それはどんなことでしたか。

- 学校の室内は本当に寒く、日本から着てきたコートを着てくる人もいた。
- ルームメイトと違うクラスになり、授業開始時間が違うため起床時間など合わせる必要があった。





研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- オプションであるアクティビティは自由参加でしたがほぼ参加しました。レンヌの様々な場所へ行った
り、少し遠くにバスを借りて遠足にも行きました。特に、Dianという街に遠足に行ったことが思い出に
残っています。城壁に囲まれて教会がいくつもあり素敵な街並みでした。週末は自由に外出することが
できたので、中心街やモン・サンミシェルに足を伸ばしたりと充実した時間を過ごすことができました。

**研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのよ
うなものでしたか。**

- 最初は授業についていけるか少し不安でしたが、簡単な自己紹介から教わるので難しすぎることはない
と思います。
- 口頭中心の授業が多く、マルシェやスーパー等の買い物でも授業で習ったことがそのまま使えました。
そのため、買い物中に会話ができなくて困るということはありませんでした。レジに並んでいると同じ
ように並んでいるお客さんから話しかけてもらうことが多々あり、学校以外でもフランス語の勉強が自
然とできる環境でした。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- フランス語のリスニング力が上がったと思います。ずっとフランス語を聞いていたので、よく使われる
言葉や聞いたことのある単語を中心に何を言っているのかを理解できるようになったと感じました。
- フランス語学習のモチベーションが上がりました。実際にフランスに来てみてまだまだ勉強が足りない
と思い、反省しています。同じクラスでも話せている人もいたので、周りからも良い刺激をもらいました。
- 日本人以外の友達がたくさんできたことにより、海外の文化や習慣を受け入れることへの抵抗が少なく
なりました。例えば、挨拶のビズもだんだん当たり前になってきます。「日本人だから…」とためらっ
ていたことも今回の研修で考えが変わりました。この研修に参加したことで、広く物事を見ることがで
きるようになったと思います。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- 自分の意見や考えをしっかりと言えるくらいスピーキング力をつけたいと感じました。語彙をもっと増や
し、対話がスムーズに成り立つくらいにしたいです。
- 日本に興味を持った人たちに日本の魅力を伝えて行きたいと考えています。フランス人の中には英語が話せない人
もたくさんいます。私はそのように英語がわからない人にも日本をもっと知ってほしいと思います。

**日本と留学先の国の違いについて気づいたことがあれば
書いてください。**

- 「挨拶」と「謝罪」への考え方が全く違います。フランス人
はお店に入る際に必ず店員に挨拶し、購入してもしなくて
も挨拶をしてからお店を出ます。また、日本人はよく謝りま
すが、フランス人は謝ることはあまりないように感じました。

**研修・留学中に困ったことはありましたか。それはどん
なことでしたか。**

- 困ったことはたくさんありましたが、毎回どうにかなっ
ていたと思います。唯一、1ヶ月常に困っていたことは寒さ
でした。夏にも関わらず、朝の気温は一桁になることがあ
り、体調管理に気を遣っていました。

**来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイス
をお願いします。**

- 授業が全てフランス語で行われるので、文法はわかってい
てもある程度の語彙力がないと大変です。先生が「わかつ
た?」「大丈夫?」「質問はない?」とたくさん問いかけて
くるので、応答することが大切です。





研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- 今回は語学研修ではなく文化研修であったので、ガラス工房や織物工房、オリーブオイル工場にも行き、職人技を目にすることができたのはとても有意義な時間だった。
- 旅行ではできない体験をできたこと。イタリア語の授業はもちろんのこと、レジデンスでの自炊生活、数多くの伝統工芸見学・体験、有名観光地訪問、全てが有意義であった。中でも、ペルージャで自由に散策した経験は地元の人とイタリア語で会話する機会になり、授業で得たことをすぐに実践できた。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- イタリア語のみの参加型授業。発言を促す先生、日本とは違いたくさん発言するクラスメイトのおかげで自分も声を出すようになっていた。
- 全て自分の知らない言語で行われる授業というのは初めての経験で、最初の頃は先生が書いていることを写すのが精一杯でした。しかし、3日目くらいからなんとなくの意味は推測できるようになってきて、確かな手応えを感じました。
- 授業後は、現地大学の日本人の先生に教えてもらいながら復習をした。これが大きな支えになり、短期間でもきちんとした学びを得ることができたように思います。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- 言語を学ぶ楽しさや人と触れ合う楽しさ、自信がなくてもしっかりと発言をする大切さ、どんなことでも楽しもうとする心、感性。
- 広い視野と考え方。日本だけでなく海外の様子を身近に感じることで、日本の良いところや、日本にない海外の良いところを知ることができた。また行動力を得た。自らの意思で積極的に人生を歩んでいきたい。
- 伝統工芸の重要性に気づけたこと。機械化が進んでいる現代において伝統工芸を守り続けていく必要があると思いました。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- 自分の目で見たことを増やし世界を広げることで、より客観的で多彩な思考が可能になればいいなと思っています。また、学芸員という文化財や文化そのものを守る仕事を目指しているので、それらに関わる人々の熱量、連綿と続いてきた歴史に間近で触れ、より一層この仕事への思いが深まりました。

日本と留学先の国の違いについて気づいたことがあれば書いてください。

- 朝の通勤時に口笛を吹いている人がいたり、笑顔があふれていたりしてとても活気があった。日中は働き夜はバールでみんな楽しくおしゃべりをするなど、生活のオンオフがしっかりしていた。
- 時間にとってもルーズなところ。複数あったバス停の時計がすべてバラバラの時刻を指していたのには思わず笑ってしまいました。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- 少しでも英語が話せるようになっておくと便利です。
- 文化研修でもあるので、みっちり勉強ばかりする必要はありませんが、コミュニケーションを取る場面があるので、単語を1つでも多く覚えているとさらに有意義な研修の時間が過ごせると思います。そして周りの建物がどれも素晴らしいものばかりなので、日本にいるときより自分の目に入るものを楽しんでほしいと思います。
- 費用が何とかなるなら、迷っている方はぜひ参加するべきです。同じ後悔なら参加しないで「行けば良かった」と思うよりも、参加して「自分に海外は合わなかったな」と思う方がいいです。3年で参加しても問題ありませんが、できるだけ1・2年生のうちに参加した方がいいと思います。





研修先・留学先：オックスフォード大学ハートフォードカレッジ 短期語学研修（イギリス）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- 英語のゲームを通して大妻生と仲良くなり、RA（Resident Assistant）という現地の大学生と自然にコミュニケーションを図るなどアクティビティが充実していて最も自分にとって有意義だった。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- 私の授業では主にイギリスの文化・発音・様々なシチュレーションに合わせた会話方法・文法・意見の言い方について学んだ。文法は中学生程度でしたが、発音はアメリカ英語とイギリス英語の違いを学んだ。
- 本場のイギリス人の英語を聞き、発音を学ぶことは私にとってとても貴重な体験だった。少人数で発音を学ぶことで丁寧に教えてもらうことができ、とても嬉しかった。
- 授業以外では寝る前にTOEICの勉強をしたり、他の国の学生と交流した。
- 寮の敷地に中国人の留学生がいたので、英語でのコミュニケーションを通して仲良くなることができた。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- この留学を経て、語学力はもちろんそうだが、特に自主性を得たと思う。自分の発音に自信がなかったが、自分の発音が先生に通じたことで自信がつき、他の国の留学生に話しかけることができた。
- 積極的に交流スペースに行き、話しかけることで仲も深まり、とても良い経験となった。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- この留学に参加し、文化の違いに対して対応する力、自主性を得た。今後、戸惑うような体験があったとしても柔軟に対応し物事を楽しみ、積極的に英語を学びたいと思う。
- 英語の授業で発言したり、TOEICにチャレンジしたりしたい。そして、また留学できることを目指して英語力を向上させたい。

日本と留学先の国との違いについて気づいたことがあれば書いてください。

- 主食がパン、芋、タイ米ということは知っていたが、中でも芋の割合がとても高く食の違いに驚いた。
- 午前中の授業の休み時間にティータイムという紅茶・コーヒーとクッキーを食べる時間があり、日本で授業を受けるよりリラックスすることができて集中しやすかったと思う。実際暮らしてみなければわからなかったことが多かったのも、とても興味深かった。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- 3週間のうちの前半はとても気温が寒く、上着が必要だったので上着もしっかり持って行ったほうがいいと思う。
- お土産や服を買い足すことによってキャリーバックに入りきらなくなるので、事前にポストンバックを持っていくと便利だと思う。





研修・留学先：スターリング大学 短期語学研修（イギリス）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- 実際に使われている生きた英語に触れることができ、日常で英語を話さなければならない環境で過ごした経験や、実際に外国の文化に触れ改めて日本の良さを知る機会になり、幅広い視点から物事を捉えられるようになった点が最も有意義だったと言える。
- 自分で生活のスケジュールを組めたことです。料理・洗濯は自分でやらねばならないので、買い物に行く日や料理にかかる時間を逆算して行動する生活は大変ではありましたが、実家でなんでも頼りっきりだった自分にはとても新鮮で、有意義に生活していたなと感じています。2か月という期間でしたが、継続していたことは自分でも驚くくらいでした。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- 語学のみならず、スコットランドならではの文化を学べた。授業以外では現地学生と交流し、異文化を身近に感じる機会となった。
- 毎日、リスニング、ライティング、リーディング、スピーキングの授業でした。教科書を使うこともあれば、グループワークでポスターを作成したり、プレゼンの資料を作成したりしました。毎週末には日記を100字以上書いて提出でした。それらをやることで4つの技能を鍛えることができました。
- 寮の近くのスーパーで基本的には買い物を済ませていました。4日に1度の割合で買い出しに行き、自炊を心がけていました。現地の友達に誘われてパーティーに参加したり、ご飯を食べに行ったりもしました。毎週末に行われるアクティビティで様々な場所へ行き、毎回とても新鮮でした。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- 今までずっと実家暮らしで甘えきった生活から一転して、自分で全てやらなければならないという環境下の中、異国の文化に触れ、友達と様々な場所に行き、日本の大学とは全く違う場所で勉強する毎日は、「自立」という言葉が一番身にしみました。自分で行動する力を一番得たと思います。
- 語学力はもちろんのこと、自身の価値観が広がりました。留学先には多様な人が集まるため、自分とは全く異なった文化的背景を持つ人と出会うことができます。さまざまな考え方に触れ、新しい考えを受け入れ、それについて考えることで自身の価値観が広がったと思います。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- 今回の留学を通して自分の実力を知れたので、もっと自分の英語力を磨いていき、多くの外国人と意思疎通がとれるようになりたいと強く思った。そのためにも、今後も英語の勉強を続行し、TOEICなどの資格にも挑戦していこうと思う。
- 今回の約2か月の生活で、1人でできることも少なからずあるということがわかり、自分に自信が持てました。この経験を生かして、世界にもっと目を向けてみることを以前より強化して、自分の将来の視野を広げていきたいと思います。

日本と留学先の国の違いについて気づいたことがあれば書いてください。

- 生活必需品以外の物価は高い印象がありました。日用品には税金がかからないため自炊をすると安く済みます。その他には、全てにおいて自由だと感じました。ファッションやLGBTなどにおいて全く干渉されません。
- 道に迷っていたら声をかけてくれるなど、見知らぬ人にも親切にしてくれるなと感じました。
- クレジットカード社会であり、バスの定期から基本的にはクレジットカード一枚で生活可能だった。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- 留学に行く前にはある程度英語を勉強し、単語などの知識を増やして行く方が良い。また、積極的に現地の人に話しかけた方が良い。
- 2か月の期間で、本当にいろんな経験をします。よく思わないことももちろんありますし、大変だと思うこともあります。でも毎日が冒険で、新しいこともたくさん経験します。一つ言えるのは、実家暮らしでも、生活できることです。料理もできるようになるし、洗濯も覚えられます。買い物も美容室も全てなんとかなります。だから「家事ができない」はなんて事ありません。全て挑戦して下さい。



長期留学・交換留学



研修・留学先：マレー州立大学 長期留学（アメリカ）

私が留学を通して自分が変わったと思うことは2つあります。1つは毎日を充実させるための努力をするようになったことです。留学前の私は毎日をなんとなく過ごしていました。大学の授業を受け、バイトに行き、携帯を長時間眺めている、そんな日々でした。平凡な生活は悪いことではありませんが、今思うとそんな生活はとても退屈だったように思います。留学中は少しでもこの貴重な経験を無駄にしたくないと考え、できるだけ多くの時間英語を話したり、友達や先生方と時間を過ごすようにしたりしていました。しかし、この考えは日本にいても同じだと思ようになりました。大学生でいられる時間は限られているし、社会人になって両親や周りの友達と離れてしまう可能性もあります。留学を通して考え方が変わったことで、日本に帰ってきた今、何気なく日々を過ごすのではなく、



何か意識をしたり目標を定めたりするようにしました。例えば、毎日英単語を覚える、週末は早起きをして散歩に行くなどです。大きな変化ではないかもしれませんが、充実した日を過ごせたと実感でき夜はぐっすり眠れます。新型コロナウイルスの影響で家の中にいる時間が多いと感じますが、この考え方のおかげで自粛生活を苦痛に感じたことはありません。この点で私は留学に行ってもよかったと感じました。

2つ目は英語の勉強に対する姿勢です。私は英語を聞く、話すことがほとんどできませんでした。それは、私は今まで英語圏への旅行や留学経験がなかったため、実際にネイティブの英語をあまり聞いたことがなかったことや、英語の勉強は大学に入るため、TOEICのスコアをとるためのものと思っていたことが原因です。しかし、留学中友達と話すこと、先生の面白い話を聞くことを通してそれらがとても楽しいと思うようになりました。今まで勉強のためだけであった英語を実際に使い楽しいと思えたことで、英語を学ぶ意欲がでてきました。以前は単語を丸暗記したり文法書を読み込むだけだったのですが、留学後は海外ドラマを積極的に見たり、YouTubeを見たりして話す聞く能力を高める努力をしています。

最後に、私は新型コロナウイルスの影響で留學生活最後の2ヶ月は日本の自宅からのオンライン授業でした。帰国が決まった当初はとても落ち込んだのですが、どこへ行っても自分のやることをやるだけだと、この留學生活を通して学んだことが支えになってくれたと思います。



研修先・留学先：ディーキン大学 長期留学（オーストラリア）

留学に参加し最も有意義だったことは、国籍も学習分野も異なる人とのつながりを持てたことです。留学しなければ知る機会がなかったような各国の事情や様々な分野の知識に触れることで、英語力と同時に学問的な視野を広げることもできました。

ディーキン大学での初めの20週間は学部での勉強に備え、語学学校でアカデミックな英語の学習をしました。最初のクラスはスピーキング力やリスニング力を上げるためのゲームやアクティビティが多く、英語に慣れること自体が主な目的のように感じましたが、クラスのレベルが上がるにつれてアカデミックな内容になり、リーディングやライティング中心の授業になりました。また、初めに語学学校に通ったことで、メルボルンの生活に慣れている留学生とも知り合うことができたので、学習面だけではなく生活面でも役立つ情報を教えてもらいとても助かりました。

学部に移ってからは、大妻での専攻とも関りがある言語学や文学の授業を二つ、美術系の科目を一つ取りました。ディーキン大学は、学生の年齢幅が幅広く、キャンパス内に子供を預ける施設もありました。また、授業は基本的に20人程度の少人数クラスで、私が日本で受けてきた受講人数が100人以上のクラスは少ないと感じました。

私が留学で得たことは難しいことでも最後までやり遂げる力、チームワーク力です。学部での授業は予習や課題の量がとても多く一番つらい時期でしたが、難しいものに挑戦しやり遂げる力を鍛えると同時にそれを乗り越えたという自信を持つことができました。留学前の私はチームワークが苦手でしたが、たくさんのグループ活動を通して人と連携して活動することの意義を学ぶことができました。

帰国後は、海外からのお客様が多い施設でアルバイトをしたり、留学中に得た気付きをもとに卒業論文を作成したりと、留学中に伸ばした英語力や多文化社会・多人種社会での体験を活かせるように努めました。留学で得たチームワーク力や初めての海外生活で身に着けた問題解決能力は、就職活動にも役立ったので、さらに伸ばしていきたいです。

最後に、留学に行く準備についてですが、文法や単語の基礎が身についているかどうかで、留学先での英語の伸び方に差が出ると感じたので、そういった英語の基礎を固めておくと思えました。

また日本について説明する場面が多かったので、余裕があれば日本の文化や社会、身近なものの体制やシステムを大まかに把握しておくとういと思います。





私は、台湾留学を通して中国語を学んだだけでなく、台湾の文化に多く触れることができました。留学前に一度台湾に行ったことがあったのですが、その時は日本人観光客として扱われ、現地の文化に馴染む時間はありませんでした。しかし、留学生として半年間生活してみると現地の文化が自分の生活の中に染み込んでいくような感覚が得られました。始めの頃は、街の雰囲気がレトロな感じで過去にタイムスリップしたような感じがしたり、お店の会計方法が違ったり、お手洗いが違ったりと生活スタイルが意外と日本人と似ていなかったのが、戸惑いがありました。ところが、周りの台湾人の温かさや優しさに触れていくうちに、自分の生活スタイルを工夫しながら過ごすことができました。留学という経験はもちろん初めてでしたが、親と離れて半年間他人と生活するというのも初めてで不安を抱えながら台湾に行きました。今まで、家事全般は親に任せていたので洗濯をしたり、食事のことを考えたり、お金の管理だったりとして生活していくことの難しさを身をもって感じました。しかし、この経験のおかげで帰国後は積極的に家の仕事に関わったり、両親に感謝したりする機会が多くなったと思います。

また、中国語のクラスにはアジアを中心とした外国人が在籍しており、台湾だけでなく他の国の文化について学ぶ機会が多かったように感じます。特に、アジアに住んでいる人は日本への関心が高く、「日本ってこういう国って聞いてるけど実際どうなの?」とか「日本のアニメ文化は素晴らしいよね」と言った声をたくさんもらいました。日本にいと、日本がどう見られているかという客観的な意見は耳にすることが少ないので、貴重な経験となりましたし、日本についてもっと知っておくべきだったとも思いました。

現在は、新型コロナウイルスの影響で留学に行けない状況が続いていると思いますが、行けるようになった際は、語学だけでなく多くのことに触れて貴重な体験をたくさんしてもらいたいと思います。





私は半年間の台湾留学で中国語の能力はもちろん、自分自身の成長を大いに実感することができました。特に、失敗を恐れずに挑戦する度胸がついたと感じています。

海外での生活は言葉をはじめ土地、習慣、文化についての知識が乏しいため、何をするにも様々な疑問や問題点が浮かび上がってきます。自分ひとりの力では解決できない事も多く、中国語を使って人に質問する機会がたくさんありました。初めは発音にも自信がない上、相手が話している内容も2割程しか聞き取れず、上手にコミュニケーションをとれない事を心配して気後れしていました。しかし、欧米から来た同じクラスの留学生がその日習ったばかりの単語や文法を試しながら積極的に店員や大学内の学生に話しかけている姿を見て、たとえ上手に話せなくても伝えようとする意欲や姿勢が一番大事なのだと学びました。それからは完璧に表現できなくても気にせず、なるべく多くの人と中国語で交流を図ることに力を入れました。また、今までしてこなかったことに挑戦する事によって、留学前よりも一人でできるようになった事が増え、一人で行動する機会が増えました。一人でいると誰かに頼ることができず、何が起きても自分の責任になりますが、やりたい事やその先の計画を考えて自由に行動する楽しさを知ることができ、なにより異国の地で自力で成し遂げられたという自分への自信に繋がりました。

授業ではペアワークやプレゼンテーションの機会が多く設けられ、台湾だけではなくクラスメイトの国についてもいろいろと知ることができ、さらに海外文化に対する意識が高まりました。日本や自分自身についての意見を他の国やクラスメイトと比較しながら発表する事もあり、日本に対しての興味や理解もより深まりました。印象深かったのは、日本人以外のクラスメイトは自国の政治についてしっかり把握しており、きちんと自分の意見を持っていた事です。授業終わりのご飯の時間にはよく熱い議論を交わしており、日本では見たことのない初めての光景に刺激を受けました。他人と違う意見を持っていても遠慮せずにつけ合っ、お互いに認め合う文化は日本ではまだ控えめに思えますが、とても素敵だし必要なものだと感じました。

今後は、この留学で得ることができた言語能力はもちろん、新たな事に挑戦する力を生かして失敗することを恐れずに、行動に移せていなかった事、興味のある事に積極的に取り組んでいきます。まず自分の意見を持つことから始め、他人と違っていたり上手く表現できたりしなくても、意見を伝えるということを大切にしていきたいです。また、留学をした事で発見できた事や、いろいろな年代、国の人と関わって得ることができた柔軟で多角的な考え方を普段の生活や進路にうまく役立てていきたいです。



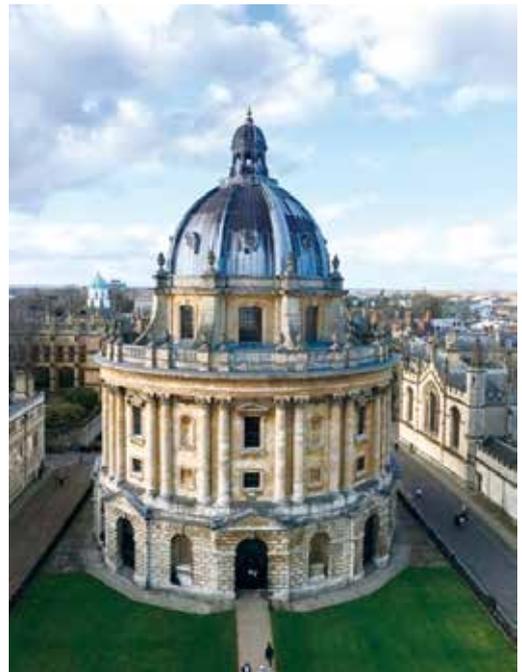


私が留学先として、イギリスのオックスフォード大学を選んだ理由は、世界中から集まる先生や生徒から、多様な文化や習慣といった価値観に触れることができると考えたためだ。さらに、私の興味関心のある分野が、移民や難民といったヨーロッパが広く携わっていた問題、また、イギリスが残留・離脱に揺れたヨーロッパ連合、EUについてであったからである。

オックスフォードでの授業が始まり、まず驚いたのは授業体制である。少人数授業で、ひとりひとりが意見を発することで成立する。今まで、日本の学習では大人数で先生による講義を「受講する」という体制が主流であった。しかし、オックスフォードでは、合っているとか間違っているというのではなく、事柄に対する問題をテンポよくいくつも挙げることで、生徒同士で自分の意見を話し合うことによって成立する「コミュニケーション型」の授業であった。もともと自分の考えを発言することが苦手な私にとって当初は自信をなくすこともあった。しかし、少しずつ発言を増やすことで、自分でも話せるようになっていくという実感も持て、授業により楽しく参加できた。また、週に一度は担当の先生と2人で話す時間があり、意見をくみ取ったうえで、それぞれの興味関心分野に即したテーマが授業で設定される。自分の興味のある分野について深掘りもでき、大変面白いものであった。さらに、この留学プログラム中は、何度も自分たちでプレゼンテーションするという授業があった。苦戦したが、繰り返すうちに、人を引き込むためにはいかに自分が楽しむか、聞き手を意識して作成するのか、少しずつ、大切なことが見えてきた。わかりやすく人に伝えるという課題は社会人になっても重要なポイントであり、これを学べたことはとても有意義であった。

授業外の生活として、最も印象的であったのは、あらゆる国からオックスフォードに学びにきた学生や社会人との交流である。彼らのほとんどは日本語を独学や専門で学ぶ人であったが、コミュニティの集まりで日本語を教えたあとは、現地で談笑することがほとんどであった。古くからイギリスの作家が知識や作品をパブで交流したように、あらゆるパブを一緒に訪れた。現地の文化を実際に深く学びながら、共に意見を交わす場は日本では味わったことのない、非日常の豊かなものであった。彼らとの出会いは、確実に私たちの生活を特別なものとしてくれた。

オックスフォードでの生活では様々な場所で多くの刺激を受けた。そこで学んだことは数えきれない。貴重な留学で学んだ、主体的に取り組むこと、継続的に努力すること、挑戦すること、意見を述べることで傾聴すること、視野を広く持つこと、知見を深めることなど、今後のゼミ活動や、就職活動、また社会人として生きていくにあたり、あらゆることにいかしていきたい。



安全と危機管理

海外留学では、「自分の身は自分で守る」という意識を持ち、そのための情報の収集や危機事象を回避することが鉄則です。情報収集の手段、危機事象回避の心構え、更に万が一事件・事故等に巻き込まれた場合の対処について、留学前に十分に理解しておいてください。

留学前準備

留学先地域の治安情勢、犯罪の傾向・手口、衛生状況や医療に関する情報、風俗・習慣・国民性、現地の法令や法律などの社会情勢等の情報収集は、プログラム内容の検討とともに重要な情報です。最新の情報収集を行うよう心がけてください。

情報提供機関	URL
外務省海「外安全ホームページ」	https://www.anzen.mofa.go.jp/
外務省「各国・地域情勢」	https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html
厚生労働省「海外旅行者のための感染症情報」	https://www.forth.go.jp/index.html

海外旅行保険と危機管理プログラム

《海外旅行保険》

海外旅行保険への加入は海外で自身の身を守るため必ず行ってください。なおクレジットカード付帯の保険は保証内容に制限があることや、全ての手続きを代理店ではなく自分で行わなければならないなど、お薦めできません。

《学研災付帯海外留学保険》

公益財団法人国際教育支援協会の学研災付帯海外留学保険（略称：付帯海学）に加入できます。入学時に加入している学研災に付帯し、海外に留学する場合の疾病や救援者費用と留学生賠償責任を充実させています。本学学生であれば個人の留学であっても学研災付帯海外留学保険に加入することができます。詳細は国際センター（国際交流支援グループ）までお問合せください。

《危機管理プログラム》

危機管理プログラムは危機管理会社が、学生・保護者・派遣元および派遣先大学・保険会社を繋いで危機に備えるプログラムです。

《JCSOS危機管理システム（海外危機管理サポートデスク・海外健康相談サービス）》

国際センターが主催する留学プログラムに参加する場合には、必ず加入することになっています。留学中に緊急事態や深刻なトラブルに巻き込まれた場合に、24時間365日利用できる緊急支援窓口を提供します。

情報提供機関	URL
JCSOS危機管理システム J-TAS(JCSOS Total Assistance Service)	https://www.jcsos.org/traveler

派遣前・派遣中のプログラム中止や帰国勧告について

外務省では、上記「海外安全ホームページ<https://www.anzen.mofa.go.jp/>」で、各国・地域の最新の治安情勢を以下のように4段階に大別しています。本学では、出発時や留学中に以下の勧告が出ている地域への留学は、渡航を延期、もしくは留学の中止および帰国勧告を検討する場合があります。

「レベル1：十分注意してください。」	その国・地域への渡航、滞在に当たって危険を避けていただくため特別な注意が必要です。
「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」	その国・地域への不要不急の渡航は止めてください。渡航する場合には特別な注意を払うとともに、十分な安全対策をとってください。
「レベル3：渡航は止めてください。(渡航中止勧告)」	その国・地域への渡航は、どのような目的であれ止めてください。(場合によっては、現地に滞在している日本人の方々に対して退避の可能性や準備を促すメッセージを含むことがあります。)
「レベル4：退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)」	その国・地域に滞在している方は滞在地から、安全な国・地域へ退避してください。この状況では、当然のことながら、どのような目的であれ新たな渡航は止めてください。

留学中の備え

留学中の所在を常に明らかにするため、外務省が提供している渡航登録サービス「オンライン在留届」や「たびレジ」に登録してください。自然災害や事件・事故、テロなど万が一の事態が起きた場合に大使館・領事館から救援活動や緊急連絡、情報提供を受けることができます。

〈オンライン在留届 (ORRネット)〉

旅券法第16条により、外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在する日本人は、その住所又は居所を管轄する日本の大使館又は総領事館（在外公館）に「在留届」を提出するよう義務付けられています。

情報提供機関	URL	QRコード
在留届電子届出システム	https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet	

〈たびレジ〉

3ヶ月未満の滞在の場合は「たびレジ」に登録します。滞在先の最新の渡航情報や緊急事態発生時の連絡メール、緊急連絡などが受け取れるシステムです。

情報提供機関	URL	QRコード
海外安全情報配信サービス	https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/	

受け入れ留学生について

《交換・招致留学生の受け入れ》

大学間交流協定に基づき、所属する大学に在籍しつつ概ね半年から1年間滞在する交換・招致留学生を受け入れ、日本語や日本文化を学修するための「日本語・日本事情」などの講座を国際センターが開設しています。

交換・招致留学生受け入れ数【交換・招致留学生受入実績】

年 度		2022	2021	2020
招致留学生数（中国）	雲南大学	0	0	—
交換留学生数（中国）	山東女子学院	0	0	—
交換留学生数（韓国）	仁荷大学校	1	1	—
	国民大学校	1	0	—
	崇実大学校	0	0	—
	明知大学校	2	2	—
合 計		4	3	—

※山東女子学院、仁荷大学校、崇実大学校は2021年度から受入開始

※新型コロナウイルスのため2020年度は受入中止



《外国人正規留学生》

大学・短期大学の各学部や大学院に所属し、本学学生と一緒に授業を受けています。

外国人正規留学生受け入れ数

2022年度

国・地域	外国人正規留学生				合計
	大学	短期大学部	大学院 (修士課程)	大学院 (博士課程)	
中国	5	0	0	1	6
韓国	1	0	0	0	1
ベトナム	1	0	0	0	1
モンゴル	1	0	0	0	1
合計	8	0	0	1	9

2021年度

国・地域	外国人正規留学生				合計
	大学	短期大学部	大学院 (修士課程)	大学院 (博士課程)	
中国	5	0	1	1	7
韓国	1	0	0	0	1
ベトナム	2	0	0	0	2
モンゴル	1	0	0	0	1
合計	9	0	1	1	11

2020年度

国・地域	外国人正規留学生				合計
	大学	短期大学部	大学院 (修士課程)	大学院 (博士課程)	
中国	4	0	1	1	6
台湾	0	0	1	0	1
韓国	1	0	0	0	1
ベトナム	2	0	0	0	2
合計	7	0	2	1	10

留学生へのピアサポート制度

日本人学生が留学生の日本語・日本文化に関する疑問などをサポートする制度です。



留学支援講座

国際センターでは、留学がより意義深いものとなるよう、事前・事後の研修としてさまざまな留学支援講座を開設しています。学生自身の語学力の把握、留学への目的意識の明確化、異文化への対応力養成、留学経験を活かしたキャリア形成などについて学ぶ機会を提供しています。

留学支援講座は、学内の国際化の意識・意欲を喚起するため、広く学生一般に開放しています。

《国内留学体験プログラム》

〈ブリティッシュヒルズ イギリス文化・英語研修〉

パスポートのいらない英国「ブリティッシュヒルズ（福島県）」での英国疑似体験研修です。英語を公用語とする語学環境に加えて、本物の英国を再現した施設で異文化理解も深めます。



《国際センター特別講座》

〈危機管理オリエンテーション〉

海外での安全に関する一般的な心構えとともに、各研修先の国・地域に特化した危険情報・事例（事件事故、感染症、テロ等）の紹介およびその対処法を学びます。

〈女性向け危機管理オリエンテーション〉

女性が特に気をつけるべき事柄、危険情報、事例の紹介およびその対処法を学びます。

〈トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム支援〉

官民協働で取り組む海外留学支援制度への申請を支援しています。

〈国際センター紹介、留学準備講座〉

国際センターの活動や、留学プログラムについての情報を提供しています。

〈留学経験者から話を聞く会〉

海外研修・留学プログラムの参加経験者が留学を希望する学生に対して、オンラインで経験談をシェアする企画です。

〈イタリア・ペルージャ外国人大学オンライン交流会〉

協定校のペルージャ外国人大学の日本語を学ぶ学生とオンライン交流会を実施しています。

国際交流イベント

国際センターでは、大妻女子大学で学ぶすべての留学生と本学学生との交流推進のために留学生交流会などのイベントを実施しています。

※2023年度実施予定ですが、状況によっては実施しない場合があります。

〈留学生交流会〉

留学生同士はもちろん日本の学生も留学生と懇親を深めるため、いろいろな企画を立てて楽しんでいます。



〈留学生・日本人学生による日本語・英語スピーチコンテスト〉

留学生による日本語のスピーチ、日本人学生による英語のスピーチのコンテストを行います。



〈韓国交換留学生と大妻生との交流会〉

90分間で時間を区切り、日本語のみ、韓国語のみで毎回違うトピックでの会話と自由会話を通して、お互いの言語を学びながら楽しく交流していきます。



〈留学生・日本人学生の交流に関する意見聴取茶話会〉

留学生日本人学生の交流推進について、リラックスした雰囲気の中で意見交換します。

課外英語力強化プログラム（千代田キャンパスのみ）

コミュニケーションに重点をおいたネイティブスピーカーによる英語のみのレッスンを週5回、年間100回実施します。

高校までに学んだ英語を、コミュニケーションツールとして使えるようになることを目標とし、基礎的な英語力を習得しながら発信力を養います。卒業まで継続受講することによって応用力を鍛え、総合的なレベルアップを目指します。

国際センターでは、海外留学を検討されている方に、留学準備として1年生からの受講をおすすめしています。

プログラム参加人数

	家	文	社	比	短	合計
2022年度	32	73	35	56	9	205

国際センター専任教員紹介

趙 方任 先生（中国語圏担当、日本事情科目担当）

大妻女子大学国際センター教授の趙方任です。

1970年中国東北の吉林市生まれ。北京大学中文科卒業後、新聞記者・編集者を経て、1996年来日。東京学芸大学で教育学修士、東京都立大学で文学博士。専攻は中国語教育・中国古典文学・茶文化。

著書に「唐宋茶詩輯注」「日中茶道逸話」「茶詩に見える中国茶文化の変遷」「実用ビジネス中国語」「中国文化講座」「HSK対策ソフト」などがあり、「中国式離婚」など翻訳・論文も多数。今まで、儒家思想、東アジア文化論、中国古典文化、中国語などの科目を教えてきたとともに、国際交流活動にも数多く携えてきました。国際センターで皆さんが異文化体験をよりスムーズにできるようにベストを尽くしたいと思います。



伊藤 みちる 先生（英語圏担当、日本語科目担当）

国際センター准教授の伊藤みちるです。

私は中学・高校・大学と10年間を大妻で過ごした生粋の大妻生です。

大学生の時にはバックパックを背負って世界中を旅しました。大妻女子大学を卒業した1ヵ月後に日本を出て、その後15年間にわたり政府系機関や国際機関に所属し、海外で、高等教育機関での日本語教育・国際協力・社会経済開発の分野における業務や研究に従事してきました。その間、奨学金を得てイギリスの大学院に2回留学し、国際関係学と社会学の二つの修士号を取得しました。

見た目も常識も考え方も異なる世界中の人たちと自分との違いを尊重し思いやり、校訓「恥を知れ」のとおりに自分を律し、広い世界に飛び込んでいってください。母校の後輩たちに異文化体験や将来に向けた進路決定についてお手伝いができれば幸いです。



森 功次 先生（フランス語圏担当、日本事情科目担当）

国際センター専任講師の森功次です。

1981年福岡生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科 博士課程単位取得退学（2015年博士号（文学）取得）。専門は美学・芸術哲学。共著に『ワードマップ現代現象学』（新曜社、2017年）。訳書にロバート・ステッカー『分析美学入門』（勁草書房、2013年）、ケンダル・ウォルトン「フィクションを怖がる」（西村清和編『分析美学入門』所収、勁草書房、2015年）、ケンダル・ウォルトン「芸術のカテゴリー」（電子出版物、2015年）、ノエル・キャロル『批評について：芸術批評の哲学』（勁草書房、2017年）など。

他国の文化を理解するには、自国の文化とどこが似ていてどこが違っているかを考えることが大事です。言葉の感覚を洗練させることは、そのための大事なステップになります。哲学・美学の視点から、学生の方々の異文化理解をお手伝いできればと思います。



留学お役立ち情報

ここで紹介するホームページは、安心して利用できる公的機関です。

留学に関する総合情報

国別	情報提供機関	URL
各国	日本学生支援機構（JASSO）「海外留学支援サイト」	https://ryugaku.jasso.go.jp/
<p>このサイトは、公的機関である日本学生支援機構（JASSO）が運営する海外留学を考える方への情報サイトです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて留学について考えるときのポイントを、準備のステップごとに紹介 ・奨学金や留学情報、イベントなど最新の情報 ・留学に関するお役立ち情報や、国・地域別の情報、語学学校や高等教育機関（大学・大学院・短期大学・専門学校）の情報 ・海外留学のための各種奨学金情報 ・海外留学に関するイベント・説明会・フェアの情報 		

国別留学情報

国別	情報提供機関	URL
各国	文部科学省・トビタテ！留学JAPAN	https://tobitate.mext.go.jp/univ/
アメリカ	アメリカンセンターJapan	https://americancenterjapan.com/study/
	日米教育委員会	http://www.fulbright.jp/study/
イギリス	ブリティッシュ・カウンシル	http://www.britishcouncil.org/education/accreditation/centres
ドイツ	ドイツ学術交流会	https://www.daad.jp/ja/
フランス	フランスの高等教育機関への留学を促進するためのフランス政府による公式機関	http://www.japon.campusfrance.org/
オーストラリア	オーストラリア政府	https://www.studyaustralia.gov.au/japanese/home
ニュージーランド	ニュージーランド政府	https://www.studywithnewzealand.govt.nz/ja

国際センターインフォメーション

■千代田校 国際交流支援グループ

〈設置場所〉 別館(J棟)4階J410室

〈開室日〉 月曜～金曜:午前8時30分～午後4時40分
土曜 :午前8時30分～午後1時10分

〈連絡先〉 〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地
電話番号 :03-5275-6310

■多摩校 学生・就職支援グループ

〈設置場所〉 4号館(図書館棟)1階

〈開室日〉 月曜～金曜:午前8時50分～午後5時00分
土曜 :午前8時50分～午後1時30分

〈連絡先〉 〒206-8540 東京都多摩市唐木田2-7-1
電話番号 :042-372-9989

■大学ホームページ(留学・国際交流)

<https://www.otsuma.ac.jp/international/>

